



見晴らしのいい高地にあるオーナー制度用の茶畠。松本靖治さん(右)が手にするのはオーナー登録証=和束町石寺地区

府内有数の茶所、和束町の茶畠オーナーになりませんか――。同町に拠点を置いて茶のネット販売をしているベンチャーカンパニー「京都おふぶ茶苑」(喜多章浩代表)が、昨年末から茶畠オーナーの募集を始めた。海外を含む120人余が応募する盛況ぶりだ。吉民家を借りてオーナーが集うイベントなどを企画するという。

(菱山出)

和束の茶畠の美しさに魅せられた喜多さんが、町内十数カ所の茶畠約1・5㌶を借り、知人2人と共に4年3月、収穫した茶を販売するホームページを立ち上げた。3人も奈良県出身だ。

副代表を務める松本靖治さん(34)は、東京の中堅ゼネコンを辞めた脱サラ組。「茶のネット販売業者は国内に多数あり、同じことをやっていても伸びない。特定の人のために作物を作るという農業の原点に立ち返る」と、オーナー

和束・オーナー募集

和束の茶畠用の茶畠。松本靖治さん(右)が手にするのはオーナー登録証=和束町石寺地区

茶摘みや手入れ、イベントも



鬼たちに豆を投げて退治する

ナーハになりましたか――。同町に拠点を置いて茶のネット販売をしているベンチャーカンパニー「京都おふぶ茶苑」(喜多章浩代表)が、昨年末から茶畠オーナーの募集を始めた。海外を含む120人余が応募する盛況ぶりだ。吉民家を借りてオーナーが集うイベントなどを企画するという。

(菱山出)

和束の茶畠用の茶畠。松本靖治さん(右)が手にするのはオーナー登録証=和束町石寺地区

マイ茶畠で一服を

法隆寺金堂壁画 原寸の複製公開

14日まで、京都工藝大

制度を始めた動機を語る。町内の高地にある石寺地区的茶畠約3㌶で収穫した茶を中心年に年6回、オーナーのもとへ送る。6年ほど前から空き家になっていた茅葺きの民家を借りて、今春からオーナーのゲストハウスにする構想もある。茶摘みや茶畠の手入れも体験できるという。

年会費1万8千円だが、オーナーに届く茶は市価約2万3千円相当という。海外にもオーナーを募ろうと英語のホームページも立ち上げ、2月には松本さんが米ワシントン州など3州をPR行脚する。松本さんは「京都に茶畠を持っているということを広く内外にアピールしていきたい」と話している。

問い合わせは京都おふぶ茶苑(0774・78・2911)へ。ホームページは(<http://www.obobu.com/>)。

飛鳥時代に描かれ、60年前に火災で焼けた法隆寺金堂壁画の、火災前に作られた貴重な複製画を公開する「コロタイブで蘇る法隆寺金堂壁画展」が京都工芸織維大美術工芸資料館(左京区松ヶ崎)で初めて開かれている(写真)。14日まで。

展示されているのは、壁画を原寸大で撮影した白黒写真をもとに1937年に作られた複製23組のうちの1組で、全12面。複製は国内の大学や博物館、英国の大英博物館や